

テーマ「郡山市の地域医療・救急医療について」

郡山市の医療体制は、医師会や消防本部などを中心に整備が進められてきましたが、特に休日・夜間に入院や手術が必要な重症患者を受け入れる二次救急医療体制について、二次救急病院の受診者数の高止まりや医療スタッフの高齢化など各病院の負担が増していることから、体制の維持が年々難しくなっています。

つきましては、持続可能な医療体制の構築を目指し、地域医療の課題を今後の医療行政の施策等に反映させるため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

調査概要

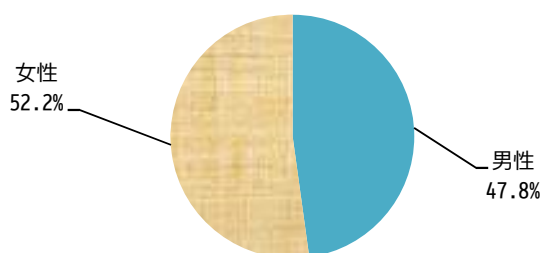
- 調査期間 平成29年12月8日(金)～12月17日(日)(10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 340名 (男性 157名 女性 183名)
- 回答者数 278名 (男性 133名 女性 145名)
- 回答率 81.8%
- 調査担当 保健所総務課



問1 性別（1つ選択）

選択肢	回答率
男性	47.8%
女性	52.2%

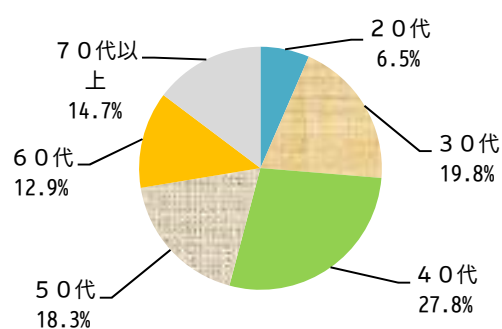
「男性」が47.8%で、「女性」が52.2%となっています。



問2 年代

選択肢	回答率
20代	6.5%
30代	19.8%
40代	27.8%
50代	18.3%
60代	12.9%
70代以上	14.7%

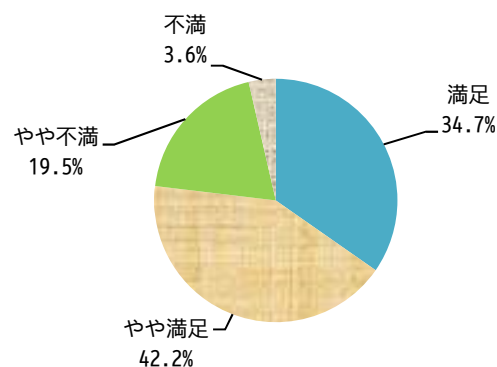
「40代」が27.8%と最も多く、次いで「30代」が19.8%となっています。



問3 お住まいの地区の医療体制（診療所・病院の数等）について、どのように感じていますか？（1つ選択）

選択肢	回答率
満足	34.7%
やや満足	42.2%
やや不満	19.5%
不満	3.6%

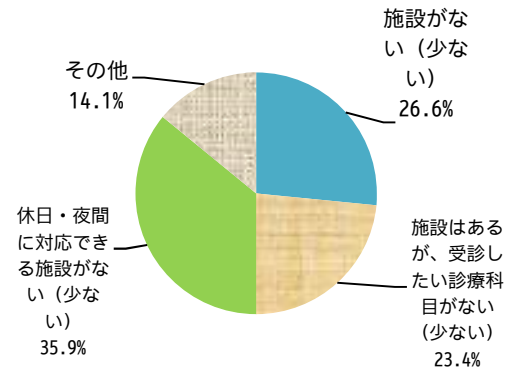
「やや満足」が42.2%と最も多く、次いで「満足」が34.7%となっています。



問4 問3で「やや不満」「不満」とお答えした方にお伺いします。具体的にどのようなところが不満ですか？（1つ選択）

選択肢	回答率
施設がない（少ない）	26.6%
施設はあるが、受診したい診療科目がない（少ない）	23.4%
休日・夜間に対応できる施設がない（少ない）	35.9%
その他	14.1%

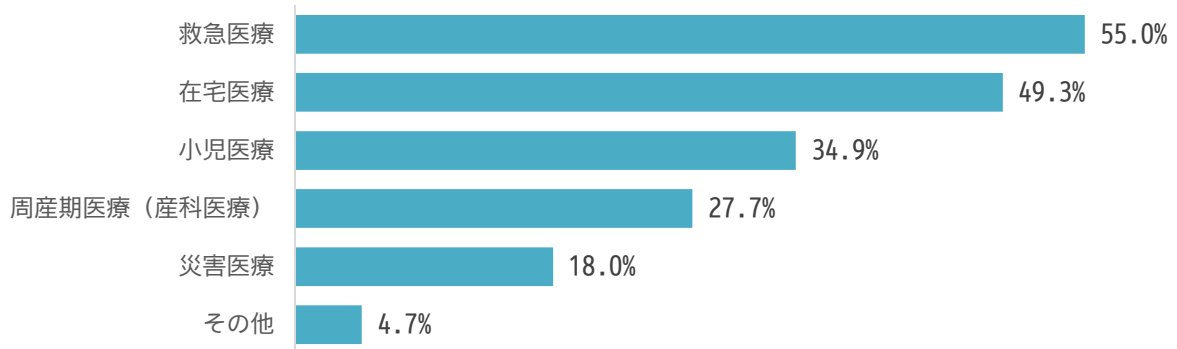
「休日・夜間に対応できる施設がない（少ない）」が35.9%と最も多く、次いで「施設がない（少ない）」が26.6%となっています。



問5 次の医療体制のうち、郡山市において、より充実すべき医療体制はどれですか？（複数選択可）

選択肢	回答率
救急医療	55.0%
在宅医療	49.3%
小児医療	34.9%
周産期医療（産科医療）	27.7%
災害医療	18.0%
その他	4.7%

「救急医療」が55.0%と最も多く、次いで「在宅医療」が49.3%、「小児医療」が34.9%となっています。

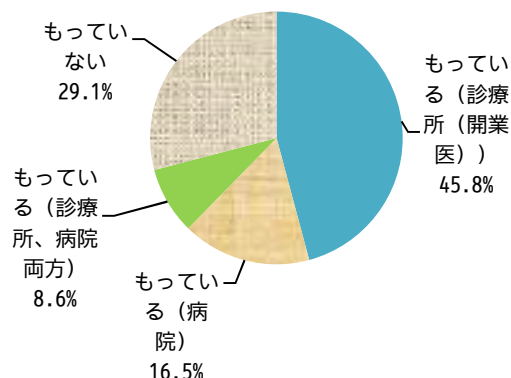


問6 あなたは、現在「かかりつけ医」をもちっていますか？（1つ選択）

※「かかりつけ医」とは、法律上の定義などはありませんが、一般的には「国民が身近な地域で日常的な医療を受けたり相談ができ、必要に応じて専門医、専門医療機関を紹介できる医師」という意味で使われています。

選択肢	回答率
もっている（診療所（開業医））	45.8%
もっている（病院）	16.5%
もっている（診療所、病院両方）	8.6%
もっていない	29.1%

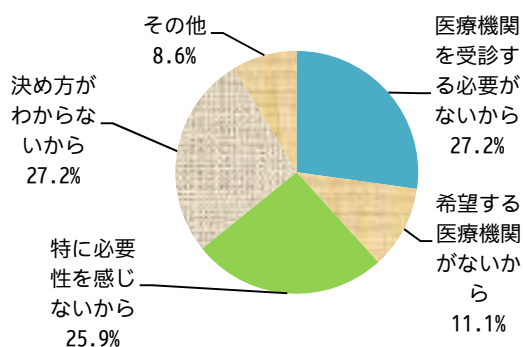
「もっている（診療所（開業医））」が45.8%と最も多く、次いで「もっている（病院）」が16.5%となっています。



問7 問6で「もっていない」を選択した方にお伺いします。その理由は何ですか？（1つ選択）

選択肢	回答率
医療機関を受診する必要がないから	27.2%
希望する医療機関がないから	11.1%
特に必要性を感じないから	25.9%
決め方がわからないから	27.2%
その他	8.6%

「医療機関を受診する必要がないから」「決め方がわからないから」が27.2%と最も多く、次いで「特に必要性を感じないから」が25.9%となっています。

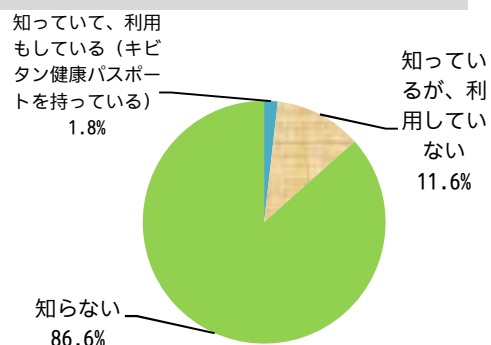


問8 キビタン健康ネットを知っていますか？（1つ選択）

※「キビタン健康ネット」とは、患者さんが医療機関を受診した際の検査・診断・治療内容・説明内容を、その後の診療に活かすことができる地域医療連携ネットワークシステムをいいます。

選択肢	回答率
知っていて、利用もしている（キビタン健康パスポートを持っている）	1.8%
知っているが、利用していない	11.6%
知らない	86.6%

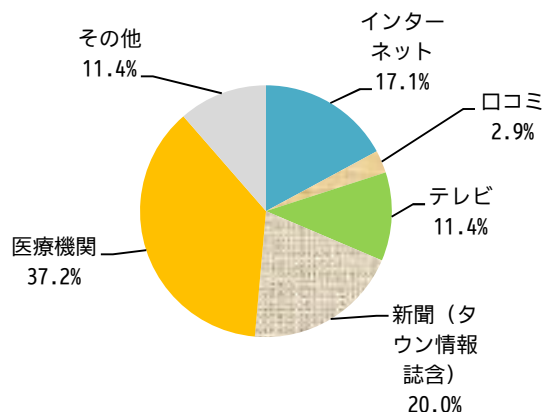
「知らない」が86.6%と最も多く、次いで「知っているが、利用していない」が11.6%となっています。



問9 問8で「知っていて、利用もしている」「知っているが、利用していない」を選択した方にお伺いします。この情報をどこで知りましたか？（1つ選択）

選択肢	回答率
インターネット	17.1%
口コミ	2.9%
テレビ	11.4%
新聞（タウン情報誌含）	20.0%
医療機関	37.2%
その他	11.4%

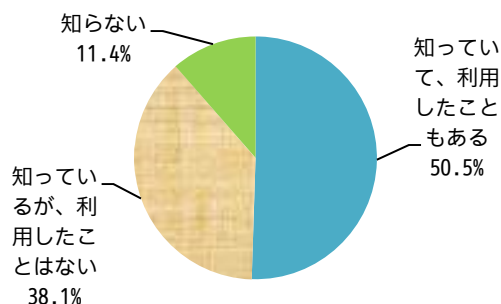
「医療機関」を選択した割合が37.2%と最も多く、次いで「新聞（タウン情報誌含）」の20.0%となっています。



問10 休日・夜間の急病患者に対応するため、郡山市が運営している「郡山市休日・夜間急病センター」を知っていますか？（1つ選択）

選択肢	回答率
知っていて、利用したこともある	50.5%
知っているが、利用したことはない	38.1%
知らない	11.4%

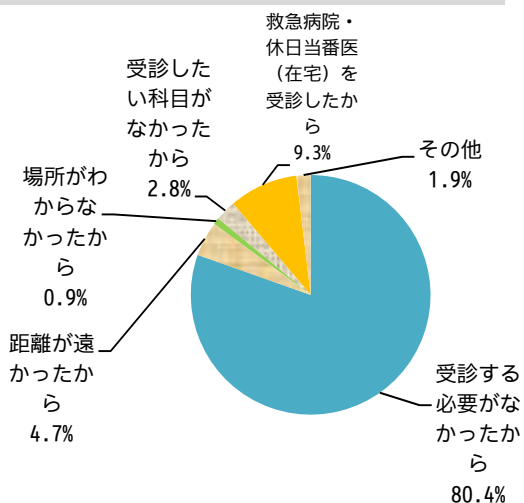
「知っていて、利用したこともある」が50.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が38.1%となっています。



問11 問10で「知っているが、利用したことはない」を選択した方にお伺いします。利用しなかった理由は何ですか？（1つ選択）

選択肢	回答率
受診する必要がなかったから	80.4%
距離が遠かったから	4.7%
場所がわからなかったから	0.9%
受診したい科目がなかったから	2.8%
救急病院・休日当番医（在宅）を受診したから	9.3%
その他	1.9%

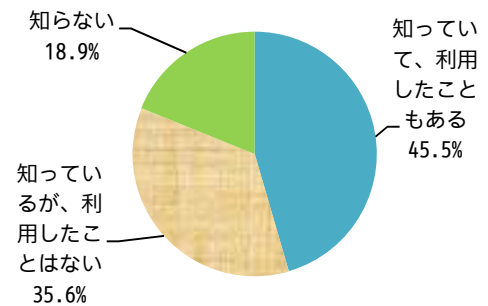
「受診する必要がなかったから」が80.4%と最も多く、次いで「救急病院・休日当番医（在宅）を受診したから」が9.3%となっています。



問12 郡山市では、郡山医師会に委託して、在宅当番医(休日のお医者さん)が交代により急病患者さんの対応にあたる体制をとっています。この体制を知っていますか？(1つ選択)

選択肢	回答率
知っていて、利用したこともある	45.5%
知っているが、利用したことはない	35.6%
知らない	18.9%

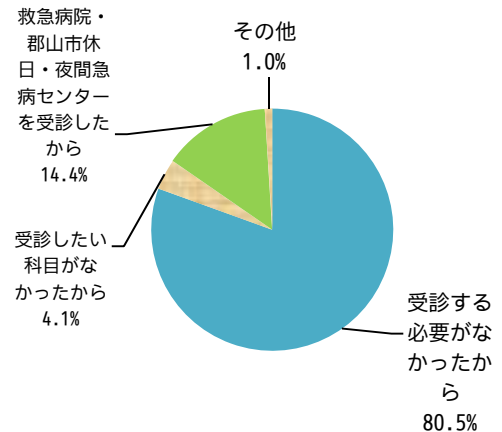
「知っていて、利用したこともある」が45.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が35.6%となっています。



問13 問12で「知っているが、利用したことはない」を選択した方にお伺いします。利用しなかった理由は何ですか？(1つ選択)

選択肢	回答率
受診する必要がなかったから	80.5%
距離が遠かったから	0.0%
場所がわからなかったから	0.0%
受診したい科目がなかったから	4.1%
救急病院・郡山市休日・夜間急病センターを受診したから	14.4%
その他	1.0%

「受診する必要がなかったから」が80.5%と最も多く、次いで「救急病院・郡山市休日・夜間急病センターを受診したから」が14.4%となっています。

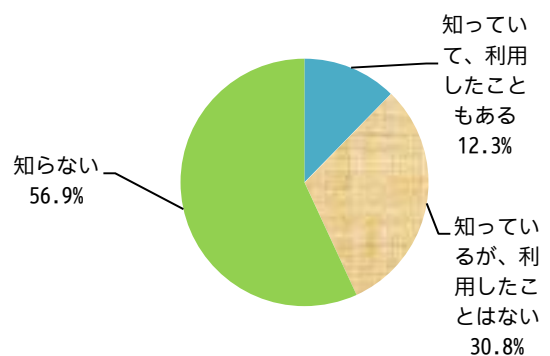


問14 #8000(福島県子ども救急電話相談)を知っていますか？(1つ選択)

※「#8000(福島県子ども救急電話相談)」とは、夜間に突然、子どもさんの体の具合が悪くなった場合に、看護師や医師などが家庭での対処法などについてアドバイスし、必要があれば受診可能な医療機関を案内するもの。

選択肢	回答率
知っていて、利用したこともある	12.3%
知っているが、利用したことはない	30.8%
知らない	56.9%

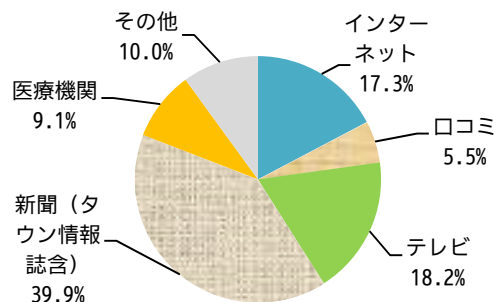
「知らない」が56.9%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が30.8%となっています。



問15 問14で「知っている、利用したこともある」「知っているが、利用したことはない」を選択した方にお伺いします。この情報をどこで知りましたか？(1つ選択)

選択肢	回答率
インターネット	17.3%
口コミ	5.5%
テレビ	18.2%
新聞(タウン情報誌含)	39.9%
医療機関	9.1%
その他	10.0%

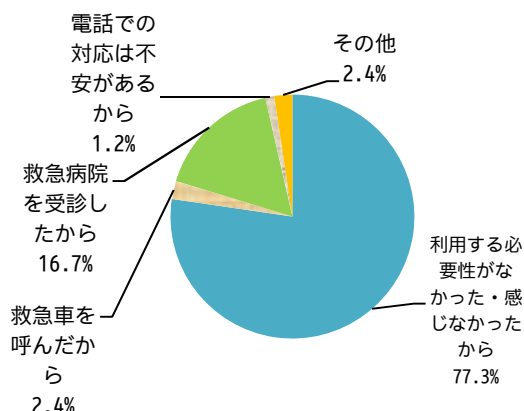
「新聞(タウン情報誌含)」が39.9%と最も多く、次いで「テレビ」の18.2%となっています。



問16 問14で「知っているが、利用したことはない」を選択した方にお伺いします。利用しなかった理由は何ですか？(1つ選択)

選択肢	回答率
利用する必要性がなかった・感じなかったから	77.3%
救急車を呼んだから	2.4%
救急病院を受診したから	16.7%
電話での対応は不安があるから	1.2%
その他	2.4%

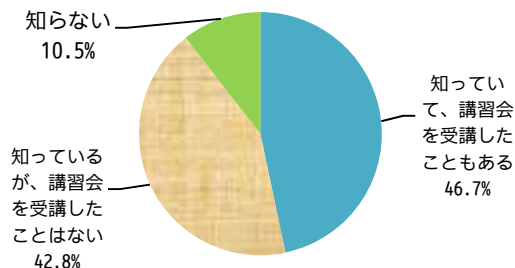
「利用する必要性がなかった・感じなかったから」が77.3%と最も多く、次いで「救急病院を受診したから」の16.7%となっています。



問17 平成16年から、一般の方も使えるようになっているAED(自動体外式除細動器)を知っていますか？(1つ選択)

選択肢	回答率
知っている、講習会を受講したこともある	46.7%
知っているが、講習会を受講したことはない	42.8%
知らない	10.5%

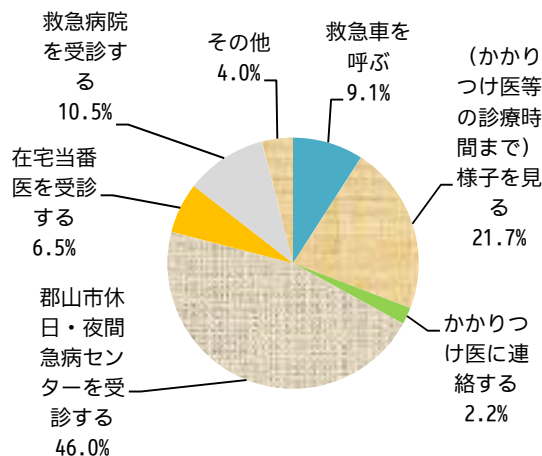
「知っている、講習会を受講したこともある」が46.7%と最も多く、次いで「知っているが、講習会を受講したことはない」が42.8%となっています。



問18 休日や夜間に急な発熱等で体調不良となり、医療機関を受診すべきかどうか迷ったときは、どのように行動しますか？(1つ選択)

選択肢	回答率
救急車を呼ぶ	9.1%
(かかりつけ医等の診療時間まで)様子を見る	21.7%
かかりつけ医に連絡する	2.2%
郡山市休日・夜間急病センターを受診する	46.0%
在宅当番医を受診する	6.5%
救急病院を受診する	10.5%
その他	4.0%

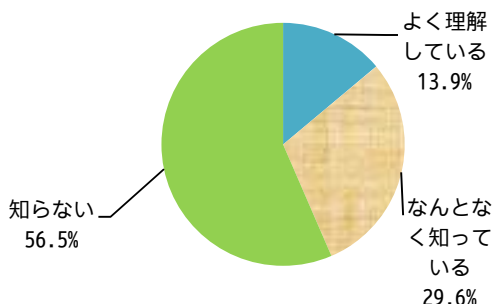
「郡山市休日・夜間急病センターを受診する」が46.0%と最も多く、次いで「(かかりつけ医等の診療時間まで)様子を見る」が21.7%となっています。



問19 郡山市の救急医療体制は、患者さんの症状や緊急性に応じて、初期(診療所等)・二次(救急病院等)・三次(太田西ノ内病院)救急に分かれています。この体制を知っていますか？(1つ選択)

選択肢	回答率
よく理解している	13.9%
なんとなく知っている	29.6%
知らない	56.5%

「知らない」が56.5%と最も多く、次いで「なんとなく知っている」が29.6%となっています。



問20 郡山市の医療を提供する体制(医療施設数、救急医療体制等)や、郡山市の医療行政に対する要望等について、ご意見等ありましたらご記入ください。(自由記述)

※主な自由意見

- ・休日診療の病院数をもっと増やしてほしい。小児科はいつもいっぱいですぐに診てもらえません。
- ・郡山市は病院が充実していると思います。医療費を抑えられるように、予防医療に力を入れてほしいです。
- ・周辺の市町村の医療体制が整っていないため、救急など郡山に来ている患者がいる。郡山の救急医療を支えるため、周辺の市町村から補助してもらおうように働きかける。
- ・大きい総合病院がいくつもあり、他の市町村に比べて恵まれていると思うが、今後高齢化に伴い慢性期に療養できる病院や施設が不足すると思うので、その部分の体制確保が必要だと思う。
- ・体制は十分に整えられていると思うが、利用者数の増加により不具合が生じているように思います。利用者の意識改善が必要ではないかと思う。

- ・二次救急を行っている輪番病院が少ない。もう少し数がないと、当番を行っている病院スタッフも含め疲弊してしまい、今の制度自体が崩壊してしまう可能性がある。
- ・郡山市には比較的多くの診療所、病院があるので、その連携をうまくやれば医療環境がさらに良くなると思います。
- ・今回のアンケートで知らないことが多かった。もっと広報等で周知してください。
- ・医師の高齢化が進んでいるように感じるので、世代交代が問題なく行えるよう、行政も何らかの関与が必要と考える。
- ・「コンビニ受診」を少なくする啓蒙活動に取り組んでほしい。知人の救急に付き添った時、1.熱があるんだから早くしろ。 2.健康保険証持参しない場合は一時全額負担に納得しない。 3.薬局の人員が少ないので時間がかかる説明に納得しない。 一度にこの3件を目のあたりにして、ビックリした経験があります。

問21 救急医療の現場では、いわゆる「コンビニ受診」の増加や増え続ける救急出動などにより、救急医療スタッフへの負担が日々増しており、救急医療体制の維持が難しくなっています。救急医療提供体制を持続するために市民ができることはどんなことがあるか、ご意見等ありましたらご記入ください。(自由記述)

※「コンビニ受診」とは、日中に症状が出ているにもかかわらず、「仕事が忙しいから」「夜間は窓口が空いていそうだから」といった理由で救急外来を受診する行為。

※主な自由意見

- ・市政だよりなどに、軽い気持ちで救急外来を利用しないように定期的に知らせて意識付けすることは、大事ではないかと思えます。
- ・最近、セルフメディケーションということが言われています。市民に対してもっと案内する必要がある。
- ・日中受診出来るよう雇用者への働きかけや、夜間救急は空いて待たされないというイメージを払拭する働きかけを行政で行う。医療者から見て緊急性がないものでも、患者は判断できず不安で救急車や救急に駆け込む人もいるので、相談窓口の充実も。潜在的医療従事者がいるので、現場復帰できるよう保育園の充実も。市民ができることを考えるより、行政で行うことがたくさんあると思います。
- ・健康管理を第一に考えた生活を心がけるとともに、症状がでたらできるだけ診療時間内で受診する。
- ・市だけでできることではありませんが、救急車は有料になってもいいと思います。使用抑制のための広報をしても、それを守るのはむしろ救急受診が必要な真面目な人だったりするのが切ないです。
- ・家族に救急・医療関係者がいるので、そういったことには十分気をつけています。
- ・市民が救急医療の現状をよく理解した上で、受診することが必要だと思えます。
- ・まず、救急医療相談専用電話窓口を設置して、振り分けるなどの対応を考えてみてはどうか。
- ・かかりつけ医制度の徹底が必要だと思う。
- ・コンビニ受診という言葉は初めて知りました。したことはありませんが、確かに日中の混み具合や休めなさを考えると夜間に行ってしまうかもしれません。市民がまず救急医療スタッフの負担が大きくなってることを知ること、医療制度とは関係ありませんが日中に休みやすくすること、忙しいからこそ誤診や不安要素がないような大きい病院に行きたいと思ってしまいます。近所の小さな病院の充実、少しの不安なら電話で状況だけ話して対策法やどれくらい緊急度なのかをプロに判断してもらえれば少し楽になるのかなと思います。